

2026 年度スローガン

仲間とともに

～果敢に挑み輝く未来へ恩義を繋げよう～

2026 年度基本方針

1. 過去から学び次代へ恩義を繋げる挑戦の 60 周年
2. まちの仲間と協同し活気を創出するまちづくり
3. 住み暮らすまちへの愛着を紡ぎ育む青少年育成

理事長所信

第 60 代 理事長 永島 太地

【はじめに】

新たな幸せを掴み取っていくために、人は成長しようとするのではないのでしょうか。20 歳から 40 歳の経済人で運営される青年会議所は、様々な業種や環境から集まった青年が自分自身に足りないものを追い求め、青年として成長する過程で得た経験を家族や会社、住み暮らすまちへ還元し、今よりも明るい未来を目指してまちづくり運動を展開しています。

入会当初はその様な特別な想いもなく、仕事の人脈作りと話すことが苦手な面を直したいくらいの気持ちで入会しました。私にとっての転機は入会直後に安来青年会議所の創立 55 周年に立ち会えたことです。当時はコロナ禍で接触制限がある中、参加者に最大限の感謝を伝え喜んでいただける機会となるよう、メンバーが知恵を絞り真剣に取り組む姿がありました。悩みながらも笑顔で活発に意見を出し合い物事を進めて行くメンバーの行動に感化され、自分もやらなければと想ったきっかけが今の行動原理に繋がっています。

入会から経験を重ね、物事に熱量を持って真剣に取り組む姿にこそ、人は共感するのだと信じるようになりました。その信条を基に、まちの問題解決に向けて失敗を恐れず果敢に挑戦していくことで協同する仲間を増やし、その仲間と共にまちを新たな幸せに導いていく決意を込めて、スローガンを『仲間とともに ～果敢に挑み輝く未来へ恩義を繋げよう～』とさせていただきました。創始よりまちの人々に支えられながら育んできた恩に対して、我々は義の心をもってまちづくり運動を展開していき、まちが更に明るく活気溢れる未来へと繋げていきます。

【次代へと繋げる創立 60 周年】

安来青年会議所は 1966 年の創立以来 60 年、このまちがより良い地域となるようまちづくり運動に邁進してまいりました。我々が今もまちづくり運動を続けられるのは時代とともに変化する問題へ果敢に挑み、より良い安来の実現を目指して歴史を紡いでこられた先人の想いや事業の結晶であり、先輩諸兄姉に尊敬の念を抱きます。

今後とも次代へと繋がる運動を展開していくためには、先人達の歴史を紐解くことで新たな価値観を見いだしていけると考えます。それは 60 年もの歳月の中で、時代毎にまちの問題を解決しようと挑戦を続けた、先人達の想いが詰まったまちづくり運動に触れることができるからです。過去の事業を改めて知る機会を設けることで、今のままでは思い付かない問題解決への糸口が見つかり、より多角的な視点で運動を展開していくことができます。

そして 60 年の歴史の中で関わった全ての方々から頂いた恩へ、我々は感謝の気持ちを抱き恩義に報いていかなければなりません。55 周年に掲げた中期ビジョンでは関係諸団体との連携を明確にすることで、この 5 年間で関係性がより強固になったと感じます。この築き上げてきた関係性を絶やすことなく、今後のまちづくり運動へパートナーシップの輪を更に広げて仲間と協同していくことで、より波及力の高い事業が展開できます。まちづくり運動で得た恩を感じるだけでなく、より良い安来となるようまちへ還元し、次代の輝く未来へと繋げていく今後のビジョンを策定し運動方針の指針にしてまいります。

【活気を創出するまちづくり】

子ども時代の月の輪祭りでは、道行く人々とすれ違えないほどの盛り上がりを見せました。祭りを通して多くの人々が一同に介することによって、進路が変わっても久しぶりに会う同級生や部活などを通じて育てていただいた保護者と近況を話す機会があり、個人にとってまちとの繋がりを改めて認識する重要な場であったと感じています。

安来市はこの 20 年余りで人口は 25%程度減少しまちの活気も少なくなったように感じます。しかしながら、青年会議所運動で交流を深めた方々の中に、熱い想いをもってこの活気の減少に立ち向かう人に出会うことができました。私の考える輝く未来とは、人々が笑顔で活発に交流し活気溢れているまちのことです。この活気溢れる未来へ繋げるためには、それぞれが試行錯誤しながら進めてきた取り組みを集約して新たな賑わいを創出し、まちの魅力として人々の繋がりの大切さを再認識できる場としていくことが必要だと考えます。

そして、その賑わいが単発で終わることなくまちの活気溢れる場として続いていくよう、まちを取り巻く人々から共感を得られる事業を構築し、仲間を増やして協同していくことで連携を深めていきます。まちの声を集め、互いの経験を共有して相乗効果を生み出すことで、時代に合わせてカタチを変えながらも続いていく事業を展開します。

そのためには我々は、人々にとってまちとの繋がりが感じられるような活気を創出する賑わいの仕組み創りを目指し、まちの幸せな未来へ導いてまいります。

【愛着を紡ぎ育む青少年育成】

子ども時代、父が青年会議所に所属していた影響からまちで行われる多くの心躍る楽しい催しに参加し、小学校から高校まで野球に打ち込み毎週訪れる練習試合に明け暮れていました。私が物事に熱中し「やりたいこと」に挑戦できていたのは、子ども達が全力を出し切れるよう大人達がいつも傍で支えてくれていたからです。当時の大人が子ども達へ愛情を注ぎ、未来のまちの担い手として期待をしていたのかが今では理解できます。

しかし、青年会議所運動の中で子ども達からまちに対し愛着を育むような機会が少なかったと話をされたことがあります。この話を聞いた時、まちに住む大人として子ども時代に与えられていた機会が提供できていない事実を悔しさを感じた一方、子ども達と接する中でまちへの熱い希望をもつ子が多くいることを知りました。我々大人達はその熱意が失われないよう子どもがまちに深く興味をもつような機会を提供する必要があります。

子ども達は日常では経験できない体験を五感で感じることで大人の想像を超える発想を養っていけるまちの宝です。経験を共にする同世代との繋がりはその後のまちの未来を輝かせる仲間を育てていきます。我々同様に子ども達も新たなチャレンジから成長を感じることで、次の世代へ自分達が与えられた以上の機会を紡いでいきたいと思うのでしょうか。その経験がまちへの愛着に繋がり、次の世代にも想いを紡ぐ未来の担い手に成長していけるよう、我々は子ども達に感性豊かな発想を育む事業を展開してまいります。

【終わりに】

物事に一生懸命挑戦する姿をみて、手を差し伸べてくれる人々が周りに増えていきます。この周りに増えていく人々こそ仲間であり、新たな試みを進めて行く際に遭遇する多くの苦難と一緒に立ち向かってくれる存在です。時代と共に変化するまちの問題を乗り越えるためには、多くの仲間と共に考え意見を出し合う中で自分では想像もつかないような発想が生まれ問題の解決へと導いてくれます。その過程で新たな刺激を受けることにより人は成長し、成長を還元することで周囲の人々を幸せにしていくことができると信じています。

青年会議所の行動指針である修練・奉仕・友情の三信条は、正に個々人が物事に真剣に打ち込む中で実行と反省を繰り返して研鑽を積み、奉仕の心をもってまちのために一生懸命運動を展開する過程にこそ共感が得られて友情が芽生え、まちに仲間が増えていくことを指針としています。

ときに、まちづくり運動に真剣に向き合う気持ちが前面に出すぎて周りを顧みずに没頭してしまうことがあります。しかし、家族や仕事を顧みない運動は個人が疲弊し周りからの共感を得られません。我々の目指す運動は、各々が自分の役割を認識して行動することで周囲と信頼を築き、仲間と協同して物事を進めていく。この三信条をメンバー全員が同じ想いをもつことで想い描く輝く未来へと繋げていきます。

希望溢れるまちの幸せな未来へと導いていくため、仲間とともに果敢にまちの問題へ挑んでいくことをお誓い申し上げ、2026年度の理事長所信とさせていただきます。